



入来商業高校

幕が下りて新たな時代へ

開校から61年の歴史



入来商業高等学校
校長 白石志郎

本校は、昭和23年4月に旧入来町立入来高校としてこの入来の地に開校しました。昭和26年に県立へと移管。昭和40年に入来高校から入来商業高校へと校名を変更し、商業系の専門高校として今日に至りました。

昭和60年に県下初の情報処理科が設置され、商業科との2学科になり、これまで商業教育をリードしてきました。

昭和42年の学校要覧では、在籍数982人、うち列車通学生が548人の上っています。旧入来駅からの通学生が長い列をなしていた風景写真も残っています。当時、駅の待合室で教科書を開いて学ぶなどの学問への牧歌的風景は国鉄宮之城線の廃止とともに姿を消し、今では懐かしいものとなりました。

本校の校歌に「**聖き使命を、聖き使命をいざいざ果たさん**」とありますとおり、地域に見守られながら閉校を無事迎え、入来高校、入来商業高校としての使命を果たし、幕を閉じることが出来ます。歴史を刻んだこの61年間の地域からの温かい叱咤激励に深甚の感謝を申し上げます。



DATA

- クラス数：普通科2クラス
- 卒業見込者数(H20年度)：53人
(男:17人 女:36人)
- 卒業生延人数(~H19年度)：5,528人
(男:3,015人 女:2,513人)

学校生活での一つ一つの思い出が、友人と先生と家族の支え、地域の協力で築いた宝物。



双子の娘、里佳さん・里沙さんが今年卒業します。
樋脇高校PTA会長
中畝地良一さん

3年間、PTA会長として活動してきました。今思うと長いようで短かったような気がします。娘が二人ともホッケー部に入学して、インターハイや国体など、試合には必ず応援に行きました。長女の姿を見てこの二人も小学生の時からホッケーを始めました。このように樋脇にはホッケーに親しむことのできる良い施設や環境があり、県などに「樋脇に高校を残して」と活動しましたが、力及ばずといった感じです。地域の方々には本当にご苦勞をお掛けしたと思っています。生徒には、社会に出たら自分の仕事などに誇りを持って頑張してほしいと心から声を掛けてあげたいです。



昭和43年卒業、17期生。熱烈に樋脇を愛している。
樋脇高校同窓会長
おびたひろみさん

この高校再編では、さまざまな動きがありましたが、現在では決まったことはしようがないと思っています。ただ願うのは、樋脇高校・入来商業高校が合併して入来町に誕生した川薩清修館高校が、永遠に続くように関係者へ全力を挙げて取り組んでほしいということです。また、樋脇町を挙げて作り上げたホッケーについても、川薩清修館と樋脇中学校と連携を取るなど、これまでと同様の取り組みをお願いしたい。それから、既存の建物や敷地については以前から文教の地としてあるので、今後も学園都市などを構想に入れ、生かしてほしいと思っています。それが同窓会全員の願いではないでしょうか。